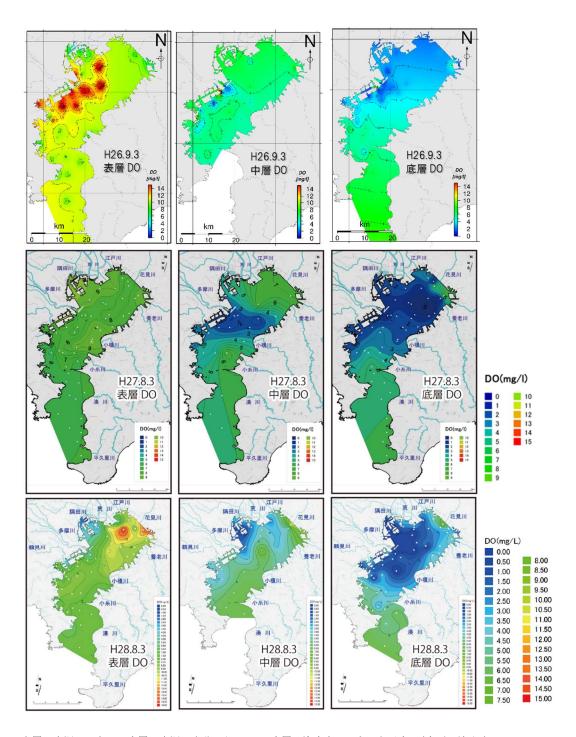
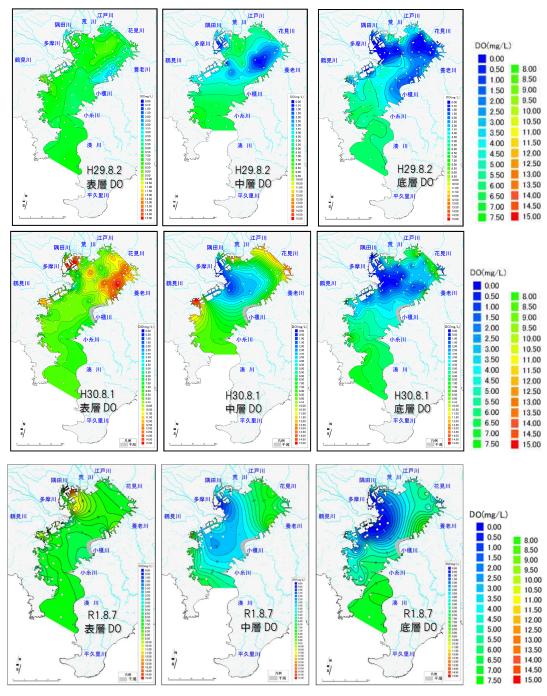


表層: 水深 1m まで、中層: 水深の半分から $\pm 1m$ 、底層: 海底上 1m までを示す。(次頁へ続く。) 図 6-5 平成 21 年から令和 3 年における東京湾の DO の状況

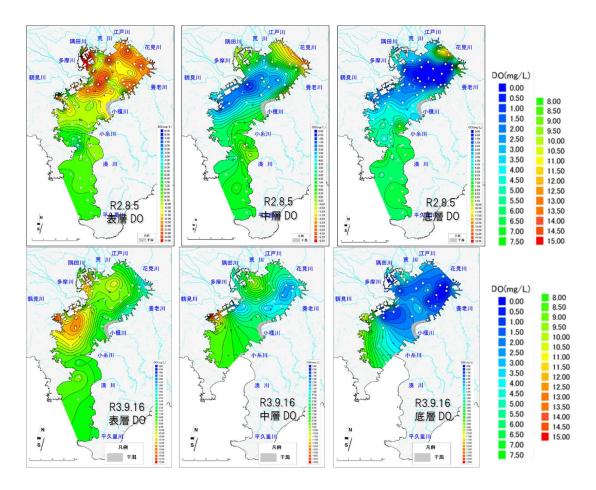


表層: 水深 1m まで、中層: 水深の半分から $\pm 1m$ 、底層: 海底上 1m までを示す。(次頁へ続く。) 図 6-5 平成 21 年から令和 3 年における東京湾の DO の状況



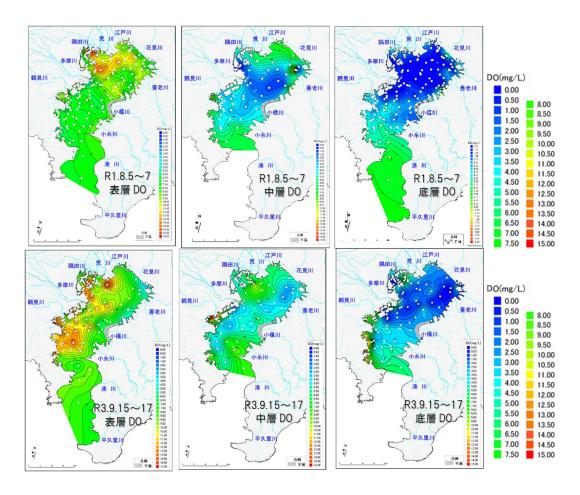
表層:水深1mまで、中層:水深の半分から±1m、底層:海底上1mまでを示す。(次頁へ続く。)

図 6-5 平成 21 年から令和 3 年における東京湾の DO の状況



表層:水深 1m まで、中層:水深の半分から ± 1 m、底層:海底上 1m までを示す。

図 6-5 平成 21 年から令和 3 年における東京湾の DO の状況

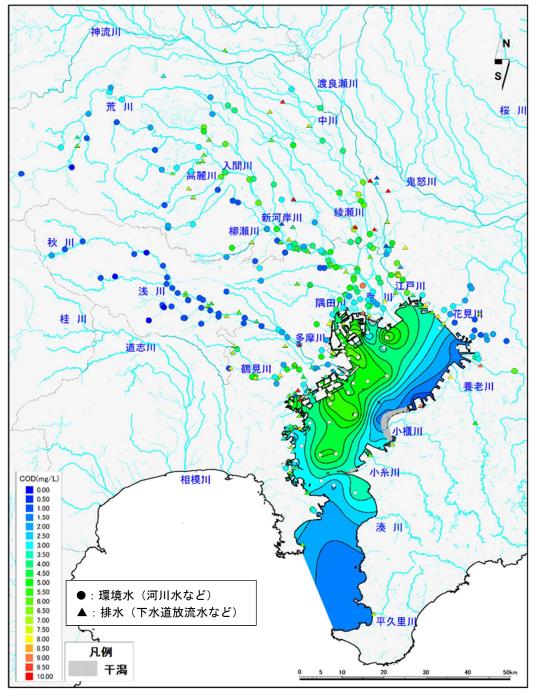


表層:水深 1m まで、中層:水深の半分から $\pm 1m$ 、底層:海底上 1m までを示す。

図 6-6 令和元年、令和 3 年における東京湾の 3 日間平均 DO の状況

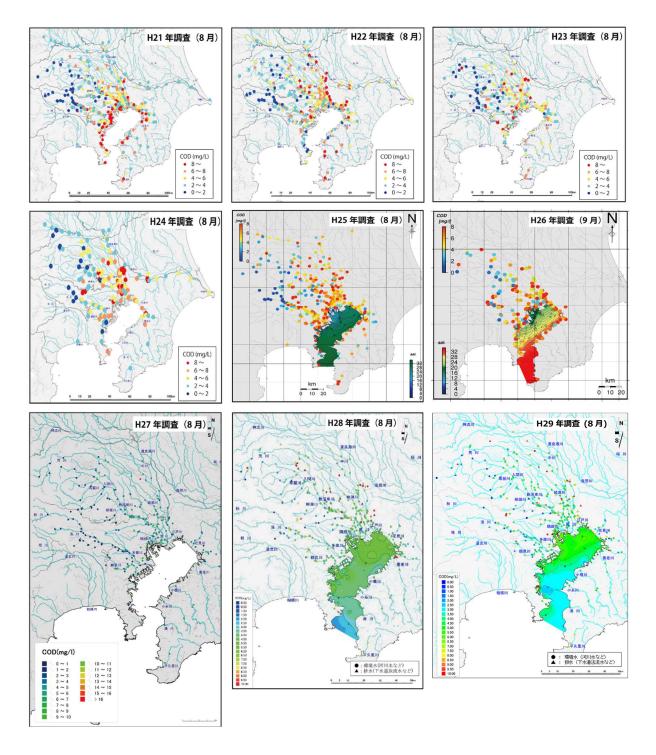
7. 化学的酸素要求量(COD)の状況

令和3年の河川(江戸川は8月、その他の河川は9月)のCODの状況は、図7-1のとおりでした。平成21年から令和3年までの13年間の河川等のCODの状況を比べると図7-2のとおりでした。CODの値は、例年、都市郊外の河川上流で低く、市街地の発達した河川下流で高い傾向が見られますが、河川規模等の影響による違いもありますので、次項「8.東京湾に流入する主な河川の状況」を参照してください。



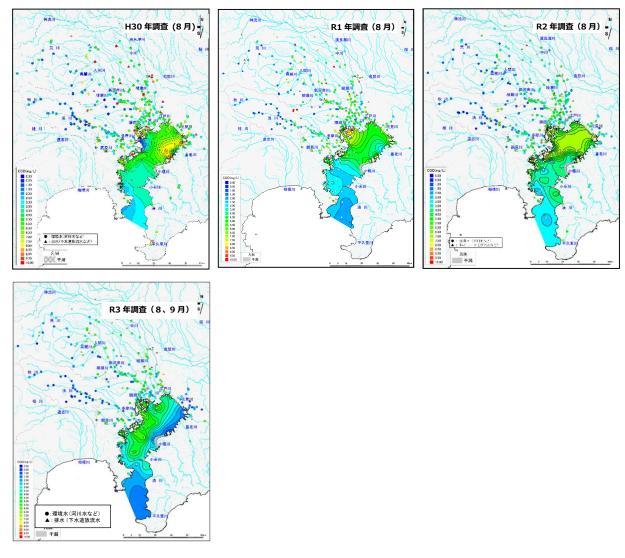
調査基準日前後の調査結果を含む。

図 7-1 令和 3 年 8、9 月の COD の状況



調査基準日前後の調査結果を含む。(次頁へ続く。)

図 7-2 平成 21 年~令和 3 年 (平成 26 年は 9 月、令和 3 年は 8 月及び 9 月、 その他は 8 月) の COD 観測結果の比較



調査基準日前後の調査結果を含む。

図 7-2 平成 21 年~令和 3 年 (平成 26 年は 9 月、令和 3 年は 8 月及び 9 月、 その他は 8 月) の COD 観測結果の比較

8. 東京湾に流入する主な河川の状況

東京湾及びその流域図を図 8-1 に示します。東京湾の流域には、東京湾に接する千葉県、 東京都、神奈川県のほか、埼玉県が広い面積を持っており、茨城県、山梨県の一部も含まれ ます。東京湾流域の河川は、陸域から東京湾へ淡水とともに物質を供給する役割を持ってお り、流域の環境は東京湾の水環境に影響を与えています。東京湾に流入する主な河川として は多摩川、荒川、鶴見川、利根川水系があげられます。

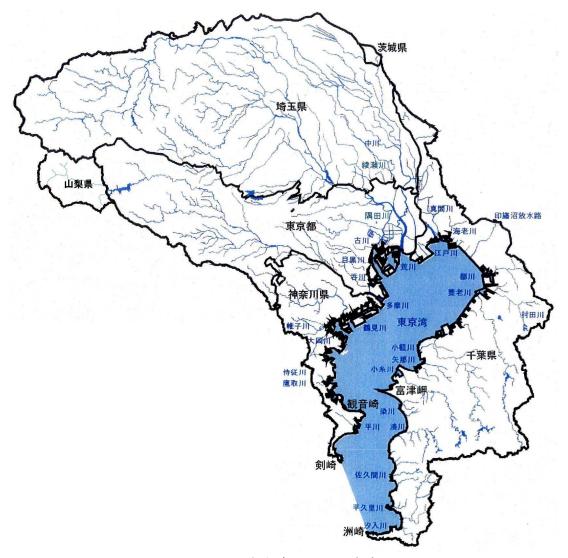


図 8-1 東京湾及びその流域図

令和3年度東京湾環境一斉調査では、河川(江戸川は8月、その他の河川は9月)等の水質調査のデータを収集しました。東京湾流域における主な河川の水温、流量、化学的酸素要求量(COD)、溶存酸素量(DO)、透視度の状況を、水系ごとに図8-2から図8-31に示します。

(1) 多摩川水系

多摩川本流の水温は、拝島原水補給点で周囲より 1 \mathbb{C} ほど、小河内ダム付近では 6 \mathbb{C} ほ ど高い水温でしたが、上流側の昭和橋から河口付近の大師橋までおよそ $15\sim20$ \mathbb{C} 前後まで上昇する傾向にありました。流量は、本流では多摩水道橋付近で急上昇し、 $119.7\,\mathrm{m}^3/\mathrm{s}$ でした。支流の流量では、 $0.2\sim28.2\,\mathrm{m}^3/\mathrm{s}$ で推移し、東秋川橋付近で $28.2\,\mathrm{m}^3/\mathrm{s}$ まで上昇する傾向がみられました。COD は、本流支流ともに、概ね河口に向かうほど高くなる傾向がありましたが、本流では、調布橋から麦山にかけては逆に上昇していました。

DO は、本流支流ともに一部で周囲より高い値の地点がありましたが、本流では $8.4\sim10.6\,\mathrm{mg/L}$ で推移し、支流では $7.3\sim12.3\,\mathrm{mg/L}$ で推移していました。透視度は、本流支流ともに、 $60\sim100\,\mathrm{cm}$ の範囲でした。

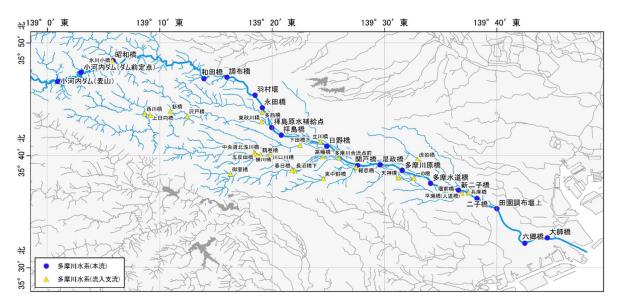


図 8-2 多摩川水系流域における調査点図

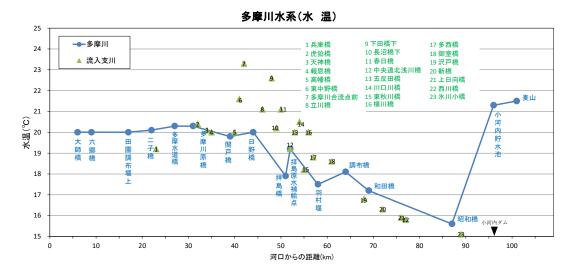


図8-3 多摩川水系における水温(9月)と河口からの距離の関係

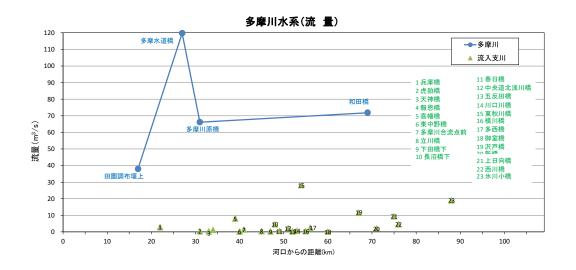


図8-4 多摩川水系における流量(9月)と河口からの距離の関係

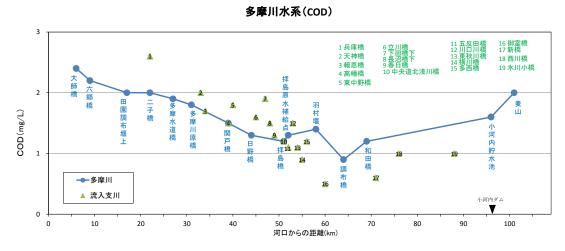


図 8-5 多摩川水系における COD (9月) と河口からの距離の関係

多摩川水系(DO)

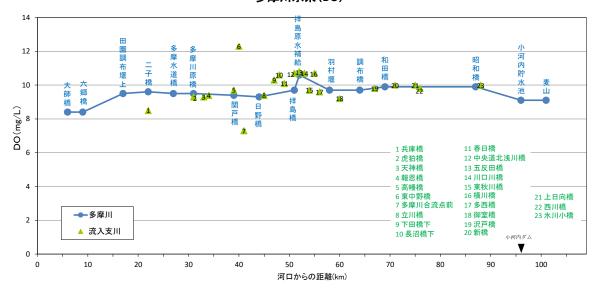


図8-6 多摩川水系におけるDO(9月)と河口からの距離の関係

多摩川水系(透視度)

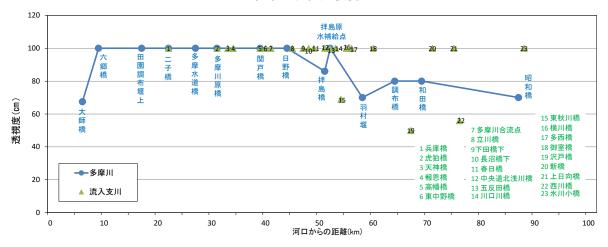


図8-7 多摩川水系における透視度(9月)と河口からの距離の関係

(2) 荒川水系

荒川水系の水温は、本流は笹目橋から秋ヶ瀬堰で 2 $^{\circ}$ $^{\circ}$ にど水温が高くなりますが、全体的に河口から上流にかけて水温が低くなる傾向がみられました。支流は $21\sim23$ $^{\circ}$ $^{\circ}$ の範囲内でした。流量は、本流の親鼻橋付近を除いて上流から河口に向かって増加する傾向がみられました。 $^{\circ}$ $^{\circ}$

DO は、本流支流ともに上流から河口にかけて減少する傾向がありましたが、本流では、河口から漸増してきた DO が 40~km 付近(秋ヶ瀬堰)で 6.2~mg/L と下降し、同地点では周囲より COD が高く、また、透視度が低くなっていました。透視度は、本流支流ともにばらつきがあり、測定最大限界の 100~cm を記録したのは両国橋、旭橋、久下橋、正喜橋でした。

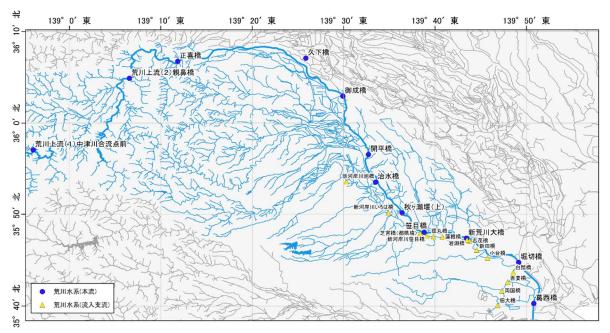


図 8-8 荒川水系流域における調査点図

荒川水系(水 温)

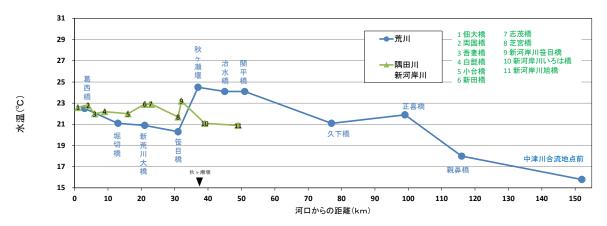
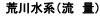


図8-9 荒川水系における水温(9月)と河口からの距離の関係



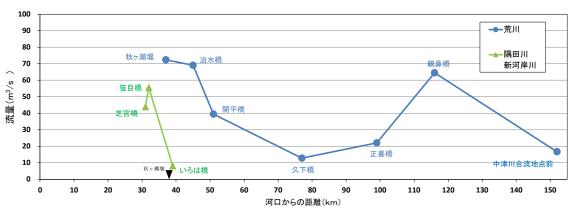


図8-10 荒川水系における流量(9月)と河口からの距離の関係

荒川水系(COD)

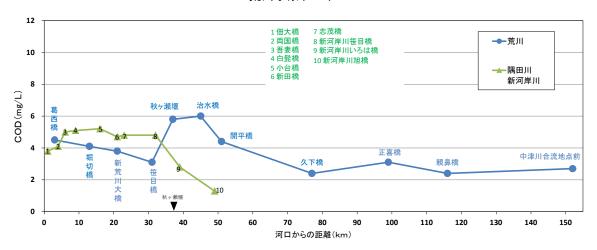


図 8-11 荒川水系における COD (9月) と河口からの距離の関係

荒川水系(DO) 10 親鼻橋 中津川合流地点前 9 笹目橋 久下橋 正喜橋 8 堀切橋 葛西橋 1 佃大橋 2 両妻橋 4 白北 (7/gm) OQ 6 秋ヶ瀬堰 ━-荒川 7 志茂橋 8 芝宮橋 9 新河岸川笹目橋 10 新河岸川いろは橋 11 新河岸川旭橋 -隅田川 2 新河岸川 1 0 10 120 130 140 0 20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 150 河口からの距離(km)

図8-12 荒川水系におけるDO(9月)と河口からの距離の関係

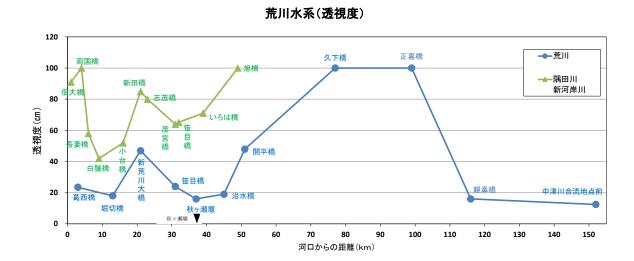


図8-13 荒川水系における透視度(9月)と河口からの距離の関係

(3) 利根川水系①(中川、江戸川、綾瀬川)

水温は、中川、綾瀬川は $23\sim24$ $^{\circ}$ $^{\circ}$ 、江戸川は $27\sim28$ $^{\circ}$ で推移しました。流量は、調査地点が 1 点である綾瀬川を除いては上流から河口に向かって増加する傾向がありました。COD は、中川では $3.2\sim6.5$ mg/L で推移しました。江戸川では、上流から河口へ向かって $3.0\sim4.4$ mg/L で推移していました。綾瀬川では、古綾瀬川綾瀬川合流点前で 7.1 mg/L と最も高い値が観測されました。

DO は、中川では、局所的に変化するところが見られるものの、全体としては河口から上流に向かって DO が漸増($4.3 \sim 7.3 \,\mathrm{mg/L}$)しています。江戸川では、常に高水準($7.1 \sim 7.8 \,\mathrm{mg/L}$)で推移しています。綾瀬川では、 $20 \,\mathrm{km}$ 付近まで DO が低く($3.6 \sim 4.6 \,\mathrm{mg/L}$)、全体として海の貧酸素の影響を強く受けていたと考えられます。透視度は、綾瀬川の桑袋大橋 $100 \,\mathrm{cm}$ を記録したのを除き、中川、綾瀬川、江戸川にて概ね $30 \sim 60 \,\mathrm{cm}$ で推移しました。

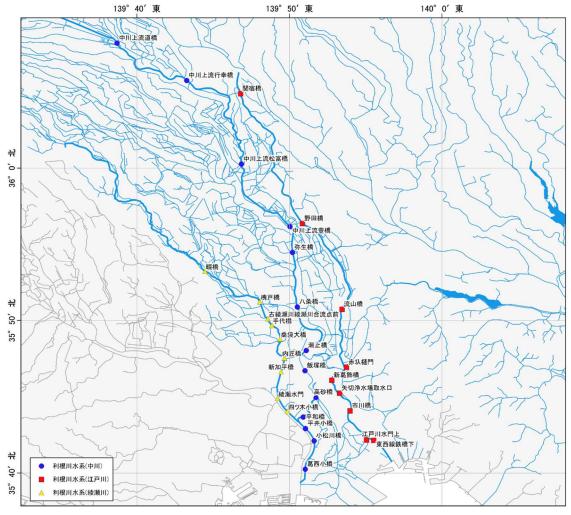


図 8-14 利根川水系流域① (中川、江戸川、綾瀬川) における調査点図

利根川水系(水 温)

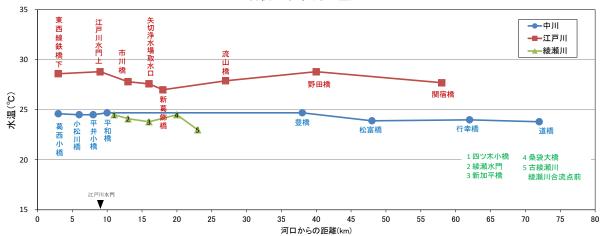


図 8-15 利根川水系① (中川、江戸川、綾瀬川) における水温 (江戸川は8月、 その他は9月) と河口からの距離の関係

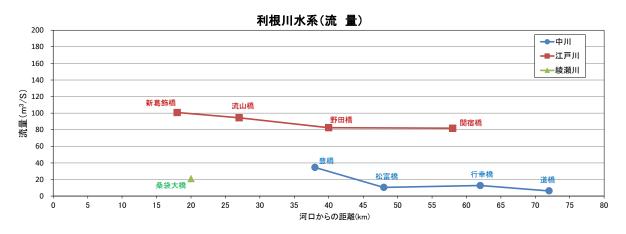


図8-16 利根川水系① (中川、江戸川、綾瀬川) における流量 (江戸川は8月、 その他は9月) と河口からの距離の関係

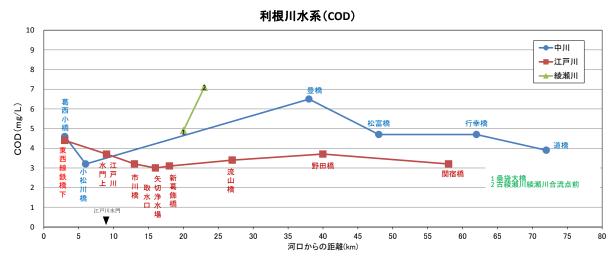


図 8-17 利根川水系① (中川、江戸川、綾瀬川) における COD (江戸川は8月、 その他は9月) と河口からの距離の関係

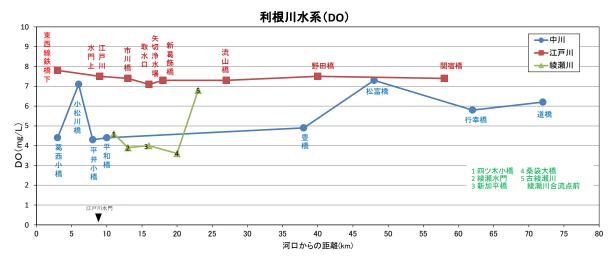


図 8-18 利根川水系① (中川、江戸川、綾瀬川) における DO (江戸川は8月、 その他は9月) と河口からの距離の関係

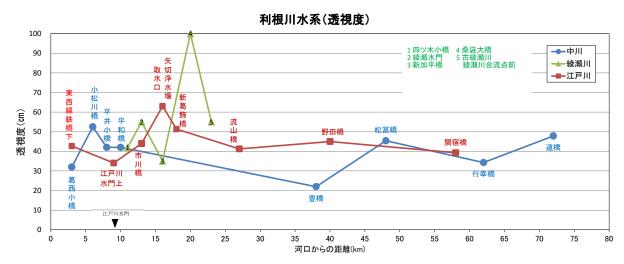


図 8-19 利根川水系① (中川、江戸川、綾瀬川) における透視度 (江戸川は8月、 その他は9月) と河口からの距離の関係

(4) 利根川水系②(花見川)

花見川の水温は、上流から河口に向かって上昇する傾向にありました。最高水温は河口付近の新花見川橋で 23 $^{\circ}$ $^{\circ}$

DO は、上流から河口に向かって $13.8\sim3.7\,\mathrm{mg/L}$ まで減少する傾向があり、昨年より低くなっていました。河口付近では湾内の貧酸素水塊が侵入したためと考えられます。透視度については、全観測点にて測定最大限界の $30\,\mathrm{cm}$ の結果で昨年と変化はありませんでした。

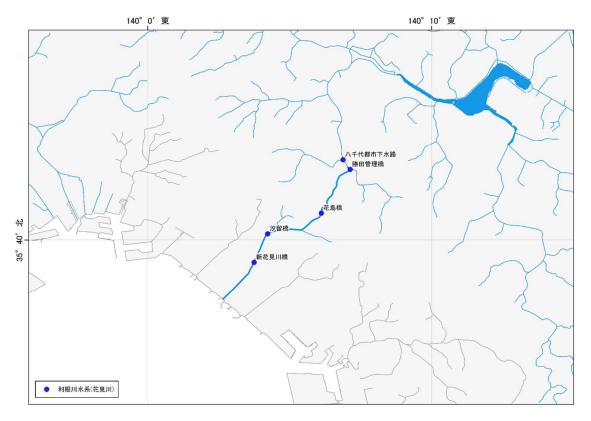


図 8-20 利根川水系(花見川)流域における調査点図

利根川水系(花見川:水 温)

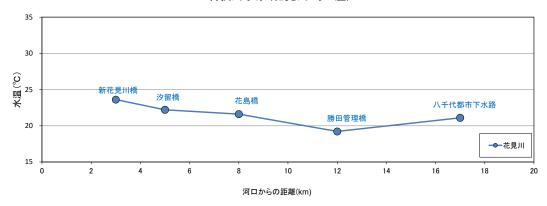


図 8-21 利根川水系(花見川)における水温(9月)と河口からの距離の関係

利根川水系(花見川:流量)

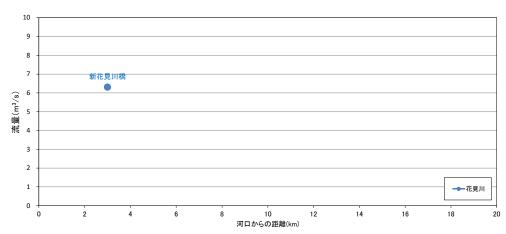


図 8-22 利根川水系(花見川)における流量(9月)と河口からの距離の関係

利根川水系(花見川:COD)

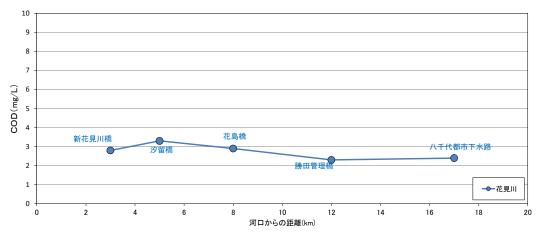


図 8-23 利根川水系(花見川)における COD (9月)と河口からの距離の関係

利根川水系(花見川:DO)

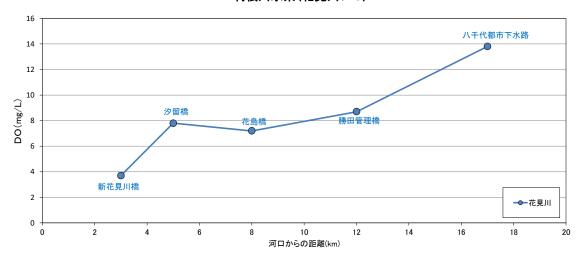


図8-24 利根川水系(花見川)におけるDO(9月)と河口からの距離の関係

利根川水系(花見川:透視度)

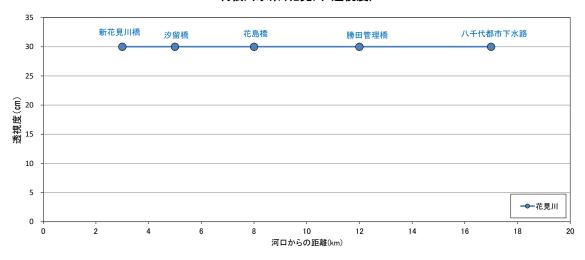


図 8-25 利根川水系 (花見川) における透視度 (9月) と河口からの距離の関係

(5) 鶴見川水系

鶴見川水系の水温は、本流は $22\sim26$ $\mathbb C$ で、支流は $19\sim23$ $\mathbb C$ で推移しました。流量は、上流から河口へ向かって増加する傾向があり、亀の子橋にて 6.5 m^3/s を観測しました。 COD は、 $3.4\sim6.0$ $\mathrm{mg/L}$ で推移しました。支流では、矢上川(矢上川橋)にて最も高い 5.2 $\mathrm{mg/L}$ を観測し、恩田川(都橋)にて最も低い 1.2 $\mathrm{mg/L}$ と観測されましたが、他の地点では $2.2\sim3.9$ $\mathrm{mg/L}$ で推移しました。

DO は、本流支流ともに上流から河口にかけて減少する傾向にありました。透視度は昨年より測定最大限界の 100 cm を観測した地点が減少しましたが、早渕川(峰の大橋)で 52 cm が観測された以外は概ね 80 cm 超の観測結果でした。

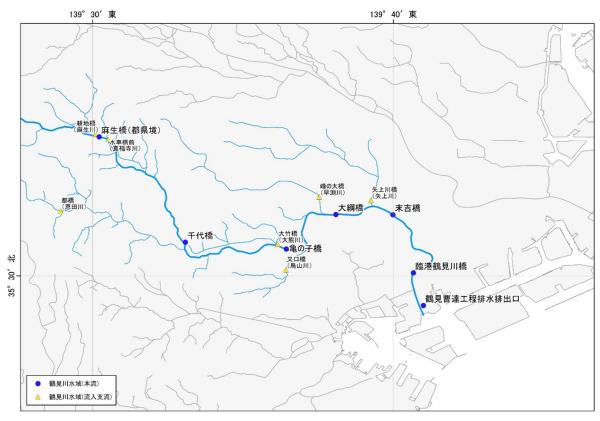


図 8-26 鶴見川水系流域における調査点図

鶴見川水系(水 温)

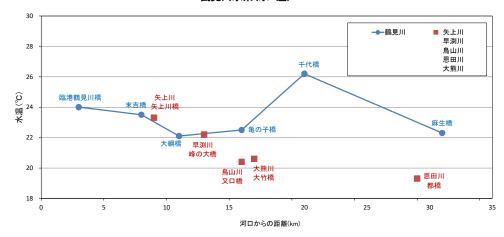


図 8-27 鶴見川水系における水温 (9月) と河口からの距離の関係



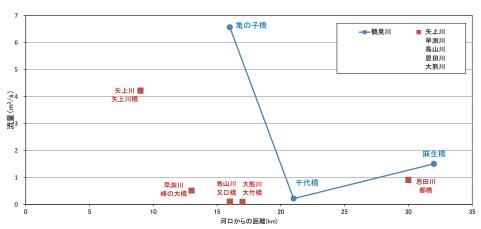


図 8-28 鶴見川水系における流量 (9月) と河口からの距離の関係

鶴見川水系(COD)

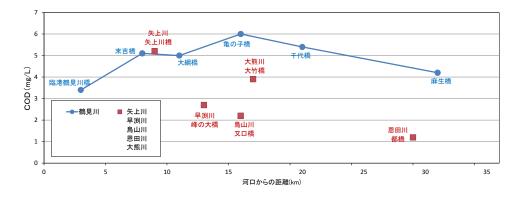


図 8-29 鶴見川水系における COD (9月) と河口からの距離の関係

鶴見川水系(DO) 20 ■ 矢上川 早渕川 鳥山川 恩田川 大熊川 18 ━鶴見川 16 14 恩田川 都橋 鳥山川 又口橋 大熊川 ■ 大竹橋 (T/gm) 10 00 8 早渕川 峰の大橋 ●麻生橋 末吉橋 大綱橋 鱼の子橋 ■ 大 矢上川 矢上川橋 4 臨港鶴見川橋 2 0 10 25 30 35 15 20 河口からの距離(km)

図8-30 鶴見川水系におけるDO(9月)と河口からの距離の関係

鶴見川水系(透視度)

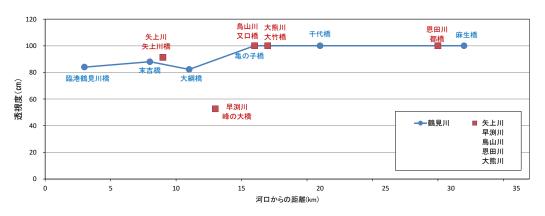


図 8-31 鶴見川水系における透視度 (9月) と河口からの距離の関係

9. 生物調査の実施実績

令和3年度の東京湾環境調査における生物調査では、昨年度と同様新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一般公募は中止し、令和2年度の生物調査参加機関に対し、令和3年中に自主的に実施した干潟調査及びその他の調査のデータ提供をお願いしました。

9-1 干潟調査

(1) 干潟調査の概要

令和3年度は多摩川河口の干潟を対象とし、そこに生息する生物種に焦点を合わせ、調査が実施されました。

(2)調査参加機関

令和3年度は、1団体から干潟調査の結果について報告がありました(表9-1)。

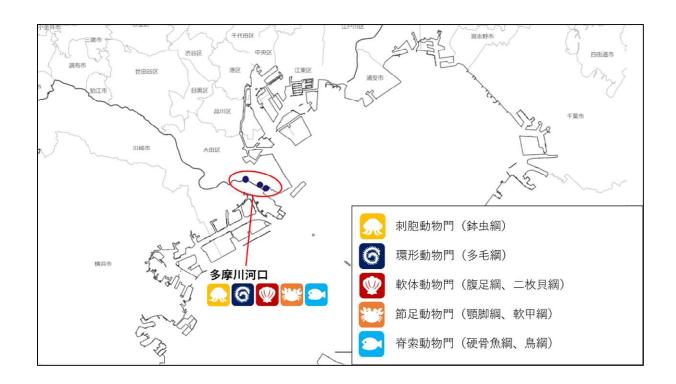
報告書 番号	実施機関	調査場所	実施日
	大田区環境マイスターの会		7月12日
		多摩川河口大田区側	8月23日
			8月24日

表 9-1 干潟生物調査の実施実績

(3) 干潟調査の結果

令和3年度の干潟調査は、1団体により1地点で実施されました(図9-1)。その結果、8 綱35種の生物の生息が確認されました(表9-2)。

さらに今回確認された生物種について、環境省レッドリスト2020(令和2年3月)及び環境省版海洋生物レッドリスト(平成29年3月)への掲載の有無を調べたところ、絶滅危惧IB類(EN)と評価される種が1種、準絶滅危惧(NT)と評価される種が3種含まれていることが確認できました。また、生態系被害防止外来種リスト(環境省及び農林水産省、2016)への掲載の有無について調べたところ、特定外来生物及び総合対策外来種は含まれていないことがわかりました。



出典:海洋状況表示システム(https://www.msil.go.jp)、国土地理院(GSI) 図 9-1 干潟調査の実施地点と確認された生物種

表 9-2 干潟調査で確認された生物種

				調査場所		
				東京都		
			種名		環境省レッドリスト/	生態系被害防止
					海洋生物レッドリスト※	外来種リスト※
				多摩		
綱	科			摩 川		
				河		
		和名	学名		カテゴリ	カテゴリ
		1H-7a	子和		3729	3739
鉢虫	オキクラゲ	アカクラゲ	Chrysaora pacifica	0		
-, -	ミズクラゲ	ミズクラゲ	Aurelia aurita	0		
多毛	ゴカイ	_	-	0		
腹足	ムシロガイ	アラムシロガイ	Reticunassa festiva	0		
二枚貝	イシガイ	カラスガイ	Cristaria plicata	0	絶滅危惧IB類(EN)	
	バカガイ	シオフキガイ	Mactra veneriformis	0		
	シジミ	ヤマトシジミ	Corbicula japonica	0	準絶滅危惧(NT)	
	マルスダレガイ	オキシジミ	Cyclina sinensis	0		
		アサリ	Ruditapes philippinarum	0		
	力キ	_	_	0		
	シオサザナミガイ	イソシジミ	Nuttalia olivacea	0		
顎脚	フジツボ	_	-	0		
軟甲	フナムシ	キタフナムシ	Ligia cinerascens	<u> </u>		
	コメツキガニ	チゴガニ	Ilyoplax pusilla	0		
	オサガニ	オサガニ	Macrophthalmus abbreviatus	<u>o</u>	準絶滅危惧(NT)	
	***************************************	ヤマトオサガニ	Macrophthalmus japonicus	<u> </u>	***************************************	
	モクズガニ	タカノケフサイソガニ	Hemigrapsus takanoi	<u> </u>	***************************************	
	-25 10	ヒライソガニ	Gaetice depressus	<u> </u>		ļ
	コブシガニ	マメコブシガニ	Philyra pisum			
	スナモグリ	ニホンスナモグリ	Callianassa japonica	9		
vat.IR. /z.	スナウミナナフシ	ムロミスナウミナナフシ	Cyathura muromiensis Nunomura	0	36 47 1-1 (1 m)	
硬骨魚	ハゼ	ヒモハゼ	Eutaeniichthys gilli		準絶滅危惧(NT)	
鳥	ハト カモメ	カワラバト ウミネコ	Columba livia Larus crassirostris	0		
	サギ	ダイサギ	Ardea alba	0		<u> </u>
	74	クイツキ コサギ	Ardea aina Egretta garzetta	1 8		
	ウ	カワウ	Phalacrocorax carbo	1 8	000000000000000000000000000000000000000	
	カラス	ハシボソガラス	Corvus corone	1 8		İ .
	~/~	ハシブトガラス	Corvus macrorhynchos	1 8		<u> </u>
	ヒバリ	ヒバリ	Alauda arvensis	1 6		
	ツバメ	ツバメ	Hirundo rustica	1 8		<u> </u>
	ヨシキリ	オオヨシキリ	Acrocephalus orientalis	Ŏ		
	ムクドリ	ムクドリ	Spodiopsar cineraceus	1 8	<u> </u>	
	スズメ	スズメ	Passer montanus	T 0		
	セキレイ	ハクセキレイ	Motacilla alba lugens	T 0		

※環境省レッドリスト/海洋生物レッドリスト:評価カテゴリーは絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧 IA 類(CR)、絶滅危惧 IB 類(EN)、絶滅危惧 I類(CR+EN)、 絶滅危惧 II 類(VU)、準絶滅危惧(NT)、情報不足(DD)、絶滅のおそれのある地域個体群(LP)の8つに分けられる。 絶滅危惧 2類(VU)は「絶滅の危険が増大している種」、準絶滅危惧(NT)は「現時点での絶滅危険度は小さいが、 生息条件の変化によっては『絶滅危惧』に移行する可能性のある種」と定義される。 ※生態系被害防止外来種リスト:定着を予防する外来種(定着予防外来種)、総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)、適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)の大きく3つに分類される。

表 9-3 干潟調査で確認された生物種(過年度との比較)

網	科	種名			調査年		
		和名	学名	令和元年 (7団体7地点)	令和2年 (1団体1地点)	令和3年 (1団体1地点)	
<u>真正紅藻</u> 鉢虫	コノハノリ オキクラゲ	ホソアヤギヌ アカクラゲ	Caloglossa ogasawaraensis Okamura Chrysaora pacifica	0		0	
FT-24	ミズクラゲ	ミズクラゲ	Aurelia aurita	0	0	Ö	
ヒドロ虫	ハナガサクラゲ	ハナガサクラゲ	Olindias formosa	0	Ō		
-+- T	タテジマイソギンチャク	ヒドロ虫綱 タテジマイソギンチャク	Hydrozoa	0			
花虫 (紐形動物門)	<u> </u>	タテンマイクキンデ <i>ャ</i> ク -	Haliplanella lineata NEMERTINEA	8			
多毛	ゴカイ	ヤマトカワゴカイ -	Hediste diadroma	0	0	0	
	チロリ	-	-	-	Ŏ	-	
	ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ	Cirriformia tentaculata		ō		
腹足	ニシキウズガイ ムシロガイ	イボキサゴ アラムシロガイ	Umbonium moniliferum	0	0	0	
	アッキガイ	イボニシ	Reticunassa festiva Thais clavigera	0		0	
		アカニシ カワザンショウガイ	Rapana venosa	Ō			
	カワザンショウガイ	カワザンショウガイ	Assimineidae	0	0		
二枚貝	イガイ	ホトトギスガイ	Arcuatula senhousia	0			
		ムラサキイガイ コウロエンカワヒバリガイ	Mytilus galloprovincialis Xenostrobus securis	0	 		
	イタボガキ	マガキ	Crassostera gigas	Ŏ	0		
	イシガイ	カラスガイ	Cristaria plicata			0	
	バカガイ	バカガイ	Mectra chinensis	0			
	マテガイ	シオフキガイ マテガイ	Mactra veneriformis Solen strictus	0	0	0	
	オキナガイ	ソトオリガイ	Laternula marilina	0	0		
	シジミ	ヤマトシジミ	Corbicula japonica	Ŏ	ŏ	0	
	マルスダレガイ	オキシジミ	Cyclina sinensis		Ō	Ō	
		ホンビノスガイ	Mercenaria mercenaria	0	 		
		ハマグリ アサリ	Meretrix lusoria Ruditapes philippinarum	0	0	0	
	力キ		- пастарез ришрршатиш -	<u> </u>	1	0	
	シオサザナミガイ	イソシジミ	Nuttalia olivacea	0	0	Ŏ	
	フネガイ	サルボウガイ	Scapharca kagoshimensis	0			
顎脚	フジツボ	シロスジフジツボ	Fistulabalanus albicostatus		 	 	
	イワフジツボ	- イワフジツボ	Chthamalus challengeri	0	0	0	
軟甲	フナムシ	キタフナムシ	Ligia cinerascens	0		0	
		フナムシ	Ligia exotica	Ō	0		
	ヤドカリ	ツメナガヨコバサミ	Clibanarius longitarsus	Q			
		テナガツノヤドカリ	Diogenes nitidimanus Terao, 1913	0	ļ <u>-</u>		
	ホンヤドカリ	- ユビナガホンヤドカリ	Pagurus dubius	0	0		
	アナジャコ	アナジャコ	Upogebia major	Ö	0		
	ハサミシャコエビ	ハサミシャコエビ	Laomedia astacina		0		
	コメツキガニ	チゴガニ	Ilyoplax pusilla	<u> </u>		0	
	オサガニ	コメツキ ガニ オサガニ	Scopimera globosa Macrophthalmus abbreviatus	0	0	0	
	2 9 % —	ヤマトオサガニ	Macrophthalmus japonicus	0	0	1 0	
	ベンケイガニ	ベンケイガニ	Sesarmops intermedium	Ŏ	Ö		
		クロベンケイガニ	Chiromantes dehaani	Q	0		
		アシハラガニ	Helice tridens	0	0		
		カクベンケイガニ クシテガニ	Parasesarma pictum Parasesarma plicatum	0	 		
		アカテガニ	Chiromantes haematocheir	Ŏ	0		
	モクズガニ	ケフサイソガニ	Hemigrapsus penicillatus	0	0		
		タカノケフサイソガニ	Hemigrapsus takanoi		<u> </u>	0	
		ヒライソガニ イソガニ	Gaetice depressus Hemigrapsus sanguineus	0	-	0	
	コブシガニ	マメコプシガニ	Philyra pisum	0		0	
	同定できなかったカニ	-	_		0		
	テナガエビ	シラタエビ	Exopalaemon Holthuis		0		
	m 12/2 2 1 mm	ユビナガスジエビ	Palaemon macrodactylus	0	0		
	エビジャコ スナモグリ	エビジャコ属 ニホンスナモグリ	Crangon sp. Callianassa japonica	0	†	0	
	スナウミナナフシ	ムロミスナウミナナフシ	Cyathura muromiensis Nunomura	Ö	0	Ŏ	
	ヨコエビ	_			0		
甲殼	ワタリガニ	ガザミ	Portunus trituberculatus	0			
		タイワンガザミ イシガニ	Portunus pelagicus Charybdis japonica				
軟骨魚	アカエイ	アカエイ	Dasyatis akajei	0			
12 13 477	タイ	クロダイ	Acanthopagrus schlegelii	0			
	ボラ	ボラ	Mugil cephalus	9	-	-	
	ハゼ	マハゼ マサゴハゼ	Acanthogobius flavimanus Pseudogobius masago	0	-	-	
		ヒモハゼ	Eutaeniichthys gilli			0	
		アベハゼ	Mugilogobius abei	0			
		トビハゼ	Periophthalmus modestus	0	-		
	団体がみなん・キ・・ユギ	ピリンゴ	Gymnogobius breunigii	0	 		
条鰭	同定できなかったハゼ ウナギ	ニホンウナギ	Anguilla japonica	0	0		
C15/PB	フグ	ニホンウナギ クサフグ	Takifugu alboplumbeus	0			
鳥	ハト	カワラバト	Columba livia			0	
	シギ	チュウシャクシギ	Numenius phaeopus				
	カモメ	キアシシギ ウミネコ	Heteroscelus brevipes Larus crassirostris	0	8	-	
	A 67.	<u> </u>	Larus crassirostris Larus ridibundus	0	1	1	
	サギ	ダイサギ	Ardea alba			0	
	1.	コサギ	Egretta garzetta		0	0	
	<u>ウ</u> カラス	カワウ	Phalacrocorax carbo		0	0	
	N/A	ハシボソガラス ハシブトガラス	Corvus corone Corvus macrorhynchos		0	0	
	ヒバリ	ヒバリ	Alauda arvensis		0	Ö	
	ツバメ	ツバメ	Hirundo rustica		Ö	0	
	ヨシキリ	オオヨシキリ	Acrocephalus orientalis		ļ	0	
	セッカ	セッカ	Cisticola juncidis		<u> </u>	+	
	ムクドリ スズメ	ムクドリ スズメ	Spodiopsar cineraceus Passer montanus		0	0	
	セキレイアトリ	ハクセキレイ	Motacilla alba lugens		1	Ö	
		カワラヒワ	Chloris sinica				





図 9-2 東京湾の干潟で確認された生物